

夢窓幼稚園通信第54号

2017年 11月 30日

昨日は来年4月からここで過ごす子どもたちやお家の方々が集まった新入園児保護者会がありました。夢窓で大切にしている思いに賛同して下さいました皆さまです。

私たちが出会いのこの場に願いをかけてきたもの、そして私たちが心をこめて築こうとしているものを、園案内の小さな言葉を通して、もう一度自らの内側にも外なる社会に対しても響かせようと思います。

便利になり、情報もたやすく手に入れることのできる世の中とはいえ、どこかあわただしく、在りのままの自分らしさを出して生きるのが難しい時代です。そんな「今」をしっかり受けとめつつ、未来に向かって少しでも納得のいく道を探し求めていけたら、……

幼い子どもたちも、共に生きる大人も目を輝かせて、「ゆっくり ゆったり」過ごすことのできる環境を 私たち自身の中から作り出し、出会いと人間の尊厳を受けとめ合う場を、意志し続けたいと思っています。

落葉していく木々の枝を目の前にしながら、次の春の緑ゆたかな様子を思い浮かべ、花を見ることができるよう、「社会の未来」のひとつの姿として、この場をデザインしていきたいと思っています。

よく「現実的」と「夢見がち」が対照的な人生態度として表現されることがありますが、未来に現実となるものを夢見ることがないとしたら、生きる甲斐がないのではないのでしょうか。

本当にリアリストであるということは、いつか実現していくことを夢描き、そこへの道を内なることとして担って生きるということなのだと思います。

クリスマスは2000年前の出来事ですが、同時に今の私たちの渾沌とした時代の確かなドラマであり、未来の私たちに託されていることへの自覚を呼び起こしてくれる時でもあるのでしょう。

日中おひさまの下で、役割をうまく果たせたり反対に七転八倒したりしながらも今の世を生きる私であることを実感することがあります。

そして夜中に、満天の星を仰ぎ見ながら自らが存在する根拠を想い、私に与えられているものを静かに感じ、未来に対する小さな予感に従って進んでいく覚悟を心深くにそと抱くこともあるでしょう。

最も大きな外なる出来事であり、何より内的な祝祭の 때가、クリスマスなのかもしれません。

もうすぐクリスマスがやってきます。

子どもたちの歌声が響きます。子どもたちの手から大切な人に向けてカードやプレゼントが生まれてきます。

私たちも自己認識とともに、クリスマスを迎える準備を心をこめてしていきたいと思っています。

園長 外光 泰雄